

正面玄関付近には、生徒たちが関心を抱いた記事が掲示されている



与論中学校（与論町）

インタビューの参考に

2016年度は、書くビューした。生徒からは力と想像力を養うことを目的に、インタビュー記事の執筆に取り組んだ。新聞記事を参考に取材対象者を設定し、状況や気持ちを考えながら文字にしていく。白男川冨子教諭(27)は、「深みのある文章が書けるようになった」と評価する。

実践編として、昨年12月からはテレビ会議システムを活用して学校と鹿児島市と結び、さまざまな職種の人たちにインタビュー（緒方隆）

か
ご
し
ま

NIE実践校

（年齢・肩書は取材当時）



輝北小学校（鹿屋市）

意見まとめ表現力養う

5、6年生の宿題や朝の会での発表などに新聞記事を活用している。表現力、読み取る力を養うため、南風録を読んで意見をまとめるほか、興味のある記事を一人一人選んで感想を発表する。

3月14日にあった5年生の授業は、鹿児島県マラソンに参加した東日本大震災の被災者を取り上げた南風録が教材。児童20人は朗読後、書き手が伝えたいことを示した文章を考えて線を引いたり、

実践校1年目。2017年度は、「子供のうた」などを使って下学年にも取り組みを広げる予定。担当の吉本里香教諭(41)は「ニュースに興味を持ち、自分の考えをまとめる児童が増えてきた」と手応えを実感した。

5年生

南風録を題材にした学習に取り組む

（福盛三南美）